

第14号溝跡は、調査区南側が第8号溝跡との位置関係から埋没していた可能性があり、調査区北側に残るのみとなる。ここからは、漆器・曲物といった木製品、伐採された自然木が出土し、さらに碗や皿などの18世紀後半の陶磁器が出土している。

第4号井戸跡が第1号溝跡の存在した位置に掘削され、継続して調査区内を縦断していた溝跡の最後の段階を物語る。

第8号溝跡北側の第26・43・38・39号溝跡は、軸方向が一致しており、同時併存していた可能性がある。その場合、区画3とは別の区画が存在したことになる。第38号溝跡から18世紀後半の瀬戸・美濃産陶器皿が出土している。

以上、平沼一丁田遺跡の変遷について概観した。

今回の調査では、縄文時代中期の土壙・集石土壙を検出し、自然堤防の形成期にわたる時期が判明するとともに、時期差のある土器の出土によって、自然堤防が継続的に利用されていたことが確認された。

古墳時代前期では周溝状遺構・掘立柱建物跡を第32号溝跡を挟んで左右に機能別に配置している状況が認められ、短期間に営まれた集落の様相を

見ることが出来た。

中・近世は、区画1→区画2→区画3へと変遷し、さらに別区画の存在も想定出来た。

区画内には、掘立柱建物跡や井戸跡が配置されており、屋敷的な性格が考えられる。

15世紀に遺構が希薄となる時期を挟みつつも16世紀になって再び居住が開始される。この変化は、徳川家康の関東入国以降の農地整備と村の編成に連動したものかもしれない。

平沼一丁田遺跡周辺は、『新編武藏国風土記稿』に「小田原役帳ニ二十五貫文。比企郡平沼卯検地。小机衆三郎殿トアレバ。御入国前所領の人推テ知ルベシ。天正十八年。前田筑前守利家ヨリ与ヘシ制札ニモ平沼ヲ載セタリ」とあり、近世以前からこの地区に開墾された土地があり、そこには平沼村が存在していたことが推測される。

中・近世の平沼一丁田遺跡に屋敷を構えた人々は、こうした農業に従事していたのであろう。

本調査で行った調査面積は3500m²と決して広いとは言えず、遺跡の範囲を全て調査出来たわけではないが、幅の狭い自然堤防を巧みに利用して生活が営まれた状況を、重なり合う遺構の中に認めることが出来る。

(2) 古墳時代前期の掘立柱建物跡について

今回の調査では、古墳時代前期に建てられたと考えられる2棟の掘立柱建物跡を検出した。

近年、低地遺跡の発掘調査事例の増加とともに、掘立柱建物跡の検出例が増加してきているが、類例の少なさから、遺構の広がりや弥生時代との継続性など不明な点が多い。ここでは、平沼一丁田遺跡で検出された掘立柱建物跡について、県内で検出されている他遺跡の掘立柱建物跡とともに若干の検討をおこない、問題点について触れてみたい。また、本報告の第7号掘立柱建物跡は、桁行の片側を布掘りする特徴を有している。この基礎工事を行った例としては県内最古であり、県内の

同時期の掘立柱建物跡に類例が認められないことから、県外に類例を求め、問題点について述べてみたい。

平沼一丁田遺跡検出の掘立柱建物跡（第197図）

平沼一丁田遺跡で検出された掘立柱建物跡2棟は、桁行2間、梁行1間の構造で、比較的小規模な建物跡である。第2号掘立柱建物跡の柱掘形には礎板が、第7号掘立柱建物跡の桁行片側には布掘りが施されており、双方とも沈下防止の処置や、地盤改良を行ってから建物を建設している。

県内で検出された古墳時代前期の掘立柱建物跡

県内で検出された古墳時代前期と考えられる掘立柱建物跡について概観し、その広がりを整理してみたい。(第198・199図)

本庄市今井条理遺跡 (岩田1998)

複数面の調査が行われ、第4遺構面で古墳時代前期の水田と集落が発見されている。水田跡の傍らには2軒の竪穴住居跡とともに2×1間、1×1間の掘立柱建物跡が検出されている。

熊谷市古宮遺跡 (鈴木2004)

二面に渡る調査が行われ、二面目から弥生時代中期から古墳時代中期に至るまでの竪穴住居跡や土壙、溝跡などが検出された。掘立柱建物跡は、弥生時代中期の独立棟持柱を持つ建物跡と、古墳時代前期の4×1間の建物跡2棟、2×2間と

2×1間の建物跡が1棟ずつ検出されている。

行田市小敷田遺跡 (吉田1991)

自然堤防上を南北1.3kmに渡って調査された遺跡で、弥生時代から平安時代に至る遺構、遺物や河川跡などが検出された。調査区は1~6区と区分されており、3区で方形周溝墓や住居跡などが検出され、その中に1×1間の第4号掘立柱建物跡と、2×1間の第5号掘立柱建物跡が検出されている。ただし、第4号掘立柱建物跡は方形周溝墓の内法において検出されているため、厳密には周溝を持つ建物跡の柱掘形である可能性もある。

熊谷市天神東遺跡 (栗岡1999)

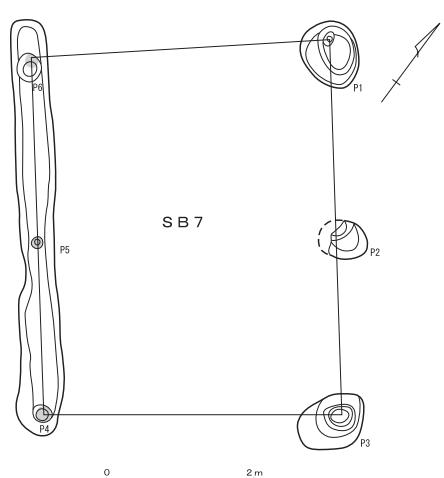
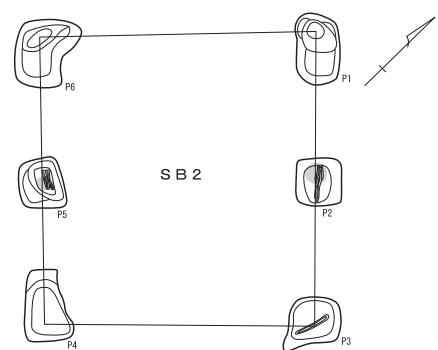
利根川とその支流によって形成された自然堤防が、洪水や地盤の沈降によって埋没した位置に立地する遺跡である。住居跡5軒と、掘立柱建物跡1棟が検出されている。古墳時代前期の遺構からなる遺跡で、一括性が高い。

坂戸市中耕遺跡 (杉崎1993)

越辺川によって形成された沖積地の後背湿地に位置し、縄文時代の遺構と、古墳時代前期の竪穴住居跡・方形周溝墓・土壙・溝跡とともに掘立柱建物跡が7棟検出されている。掘立柱建物跡は、1×1間が3棟、2×1間が3棟、2×2間が1棟検出されている。

川島町白井沼遺跡 (中山2005・栗岡2007)

荒川低地に形成された複雑に切り合う自然堤防の中でも小規模な自然堤防上に位置する。三次に渡る調査がおこなわれ、縄文時代の土壙と周溝遺構、掘立柱建物跡が検出されている。掘立柱建物跡は5棟検出され、2×2間が2棟、3×1間が2棟だが、このうちの1棟は片側の梁行に独立した棟持柱が存在する。同様に、規模は不明だが桁行2間以上の建物跡にも独立棟持柱がある。白井沼遺跡では、在地の土器とともに多くの東海産の土器が発見されている。特に静岡県東部の大廓式土器が数多く出土していることは、東海地方との関りを考える上で注目される。



第197図 平沼一丁田遺跡検出の掘立柱建物跡

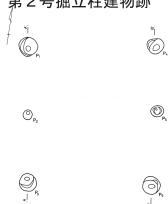
本庄市今井条里遺跡



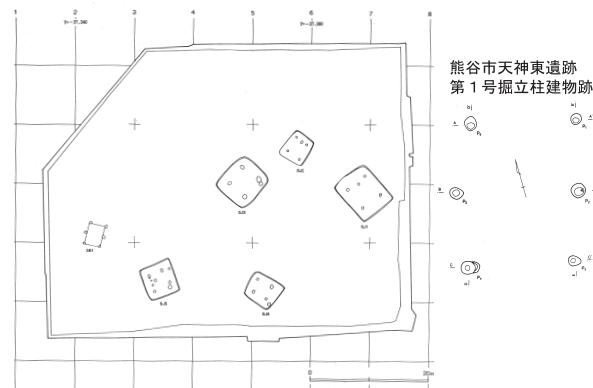
本庄市今井条里遺跡
第1号掘立柱建物跡



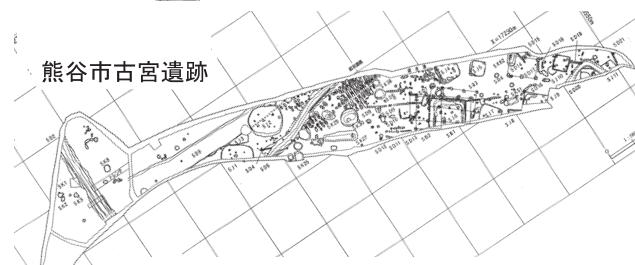
本庄市今井条里遺跡
第2号掘立柱建物跡



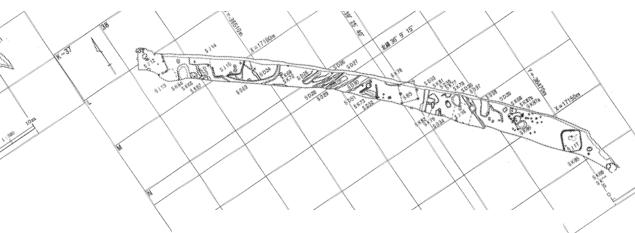
熊谷市天神東遺跡



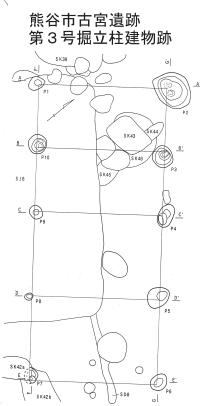
熊谷市古宮遺跡



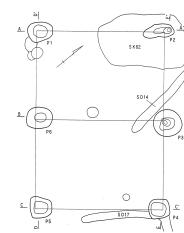
坂戸市中耕遺跡



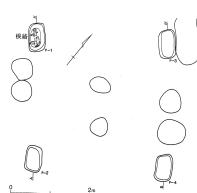
熊谷市古宮遺跡
第3号掘立柱建物跡



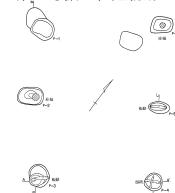
熊谷市古宮遺跡
第4号掘立柱建物跡



行田市小敷田遺跡
第4号掘立柱建物跡



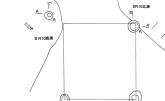
行田市小敷田遺跡
第5号掘立柱建物跡



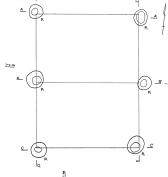
坂戸市中耕遺跡
第1号掘立柱建物跡



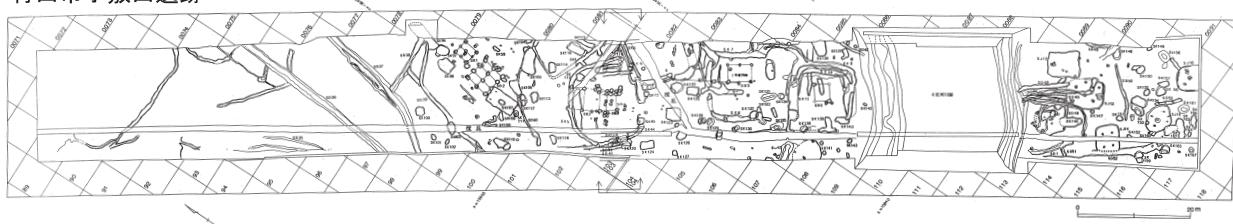
坂戸市中耕遺跡
第2号掘立柱建物跡



坂戸市中耕遺跡
第5号掘立柱建物跡

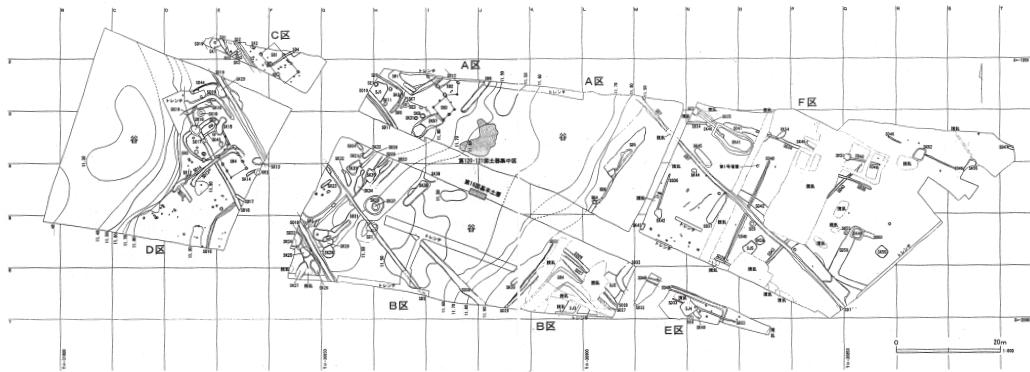


行田市小敷田遺跡

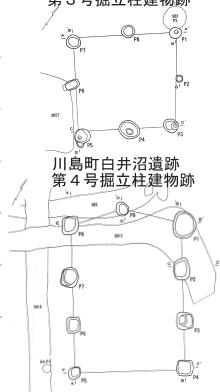


第198図 埼玉県内の掘立柱建物跡検出遺跡（1）

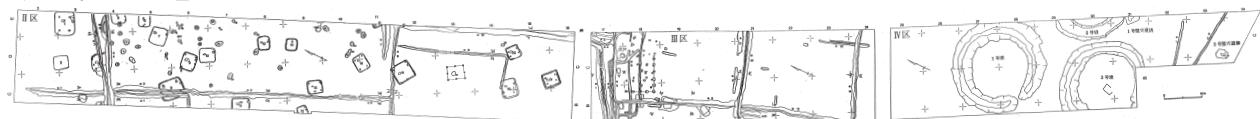
川島町白井沼遺跡



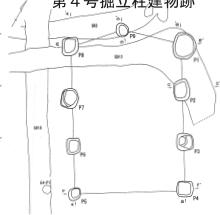
川島町白井沼遺跡
第3号掘立柱建物跡



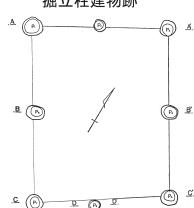
蓮田市ささら遺跡



川島町白井沼遺跡
第4号掘立柱建物跡

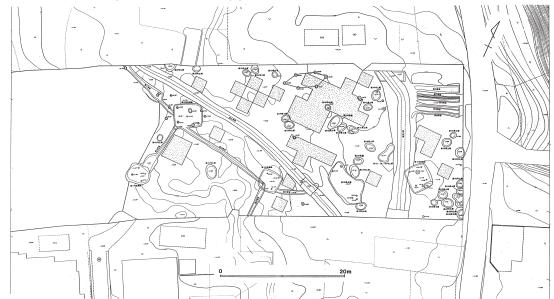


蓮田市ささら遺跡
掘立柱建物跡

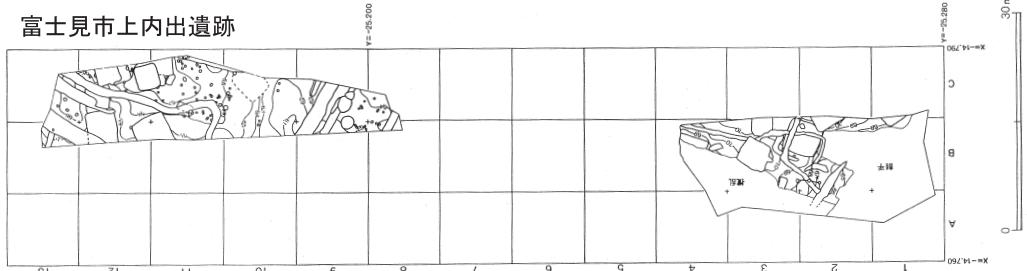


さいたま市大崎北久保遺跡
第1号掘立柱建物跡

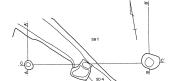
さいたま市大崎北久保遺跡



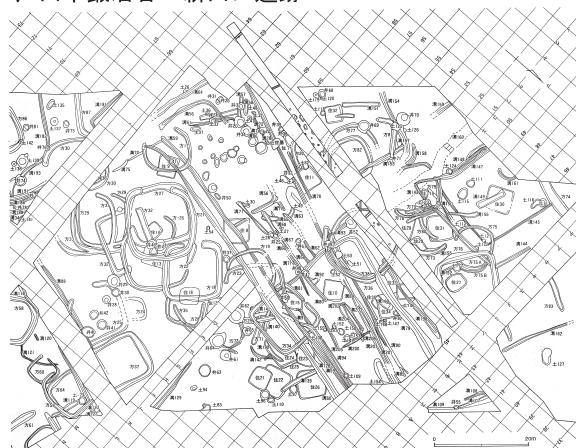
富士見市上内出遺跡



富士見市上内出遺跡
第1号掘立柱建物跡



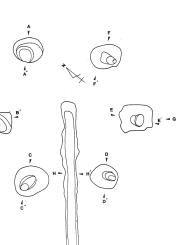
戸田市鍛冶谷・新田口遺跡



戸田市鍛冶谷・新田口遺跡
第1・10号掘立柱建物跡



鳩谷市三ツ和遺跡
円形配置柱穴遺構



第199図 埼玉県内の掘立柱建物跡検出遺跡（2）

第42表 埼玉県内の古墳時代前期掘立柱建物跡

遺構名・調査年次	方位	分類	間数		規模(m)		平面積 (m ²)	柱間寸法(m)		掘形		時期	備考
			桁	梁	桁行	梁行		桁行	梁行	規模(cm)	形態		
川島町 平沼一丁田遺跡													
第2号掘立柱建物跡	N-44° -W	側柱	2	1	3.98	3.75	14.92	1.99	1.87	64~97	隅丸方形	古墳前期後半	
第7号掘立柱建物跡	N-39° -W	側柱	2	1	5.00	4.05	20.25	2.46	4.05	15~93	円形	古墳前期後半	
本庄市 今井条理遺跡 (岩田1998)													
第1号掘立柱建物跡	N-8° -W	側柱	2	1	3.35	3.1	10.39	1.68	3.1	50	円形	古墳前期後半	
第2号掘立柱建物跡	N-27° -W	側柱	1	1	3.4	1.7	5.78	3.4	1.7	40~47	円形	古墳前期後半	
熊谷市 古宮遺跡 第1~3次 (鈴木2004)													
第1号掘立柱建物跡	N-45° -W	側柱	4	1	11.5	4.7	52.41	2.79	4.7	53~95	円・方形	古墳前期	
第2号掘立柱建物跡	N-34° -E	側柱	(2)	1	(5.95)	4.37	(26)	2.98	4.37	26~60	円・方形	古墳前期	
第3号掘立柱建物跡	N-49° -W	側柱	4	1	8.45	3.55	30	2.11	3.55	20~95	円形	古墳前期	
第4号掘立柱建物跡	N-39° -W	側柱	2	1	5	3.5	17.5	2.5	3.5	37~80	円・隅丸方形	古墳前期	
熊谷市 天神東遺跡 (栗岡1999)													
第1号掘立柱建物跡	N-15° -E	側柱	2	1	3.6	2.7	9.7	1.8	2.7	25~30	円形	古墳前期後半	
熊谷・行田市 小敷田遺跡4区 (吉田1991)													
第4号掘立柱建物跡	N-40° -W	側柱	1	1	3.3	3.2	10.56	3.3	3.2	40~70	方形	古墳前期後半	
第5号掘立柱建物跡	N-35° -W	側柱	2	1	3.8	3	11.4	1.9	3	45~50	方形	古墳前期後半	
第6号掘立柱建物跡	—	側柱	1	1	3	3	9	3	3	40~80	方形	古墳前期後半	
坂戸市 中耕遺跡 (杉崎1993)													
第1号掘立柱建物跡	N-45° -E	側柱	1	1	2.7	2.46	6.64	2.7	2.5	30~45	円形	古墳前期前半	
第2号掘立柱建物跡	N-45° -E	側柱	1	1	2.4	2.28	5.47	2.4	2.28	30~45	円形	古墳前期前半	
第3号掘立柱建物跡	N-33° -W	側柱	2	1	3.12	2.54	7.92	1.56	2.54	21~30	円形	古墳前期前半	
第4号掘立柱建物跡	N-52° -W	側柱	2	1	3.42	2.87	9.82	1.71	2.87	30~45	円形	古墳前期前半	
第5号掘立柱建物跡	N-5° -W	側柱	2	1	4.26	3.24	13.8	2.13	3.24	42~60	円形	古墳前期前半	
第6号掘立柱建物跡	N-8° -W	総柱?	2	2	5.22	3.72	19.42	2.61	1.86	24~54	円形	古墳前期前半	
第7号掘立柱建物跡	N-30° -W	側柱	1	1	3.06	2.64	8.09	3.06	2.64	30~48	円形	古墳前期前半	
川島町 白井沼遺跡 第1次 (磯崎・中山2005)													
第1号掘立柱建物跡	N-12° -E	側柱	2	2	3.35	3.92	13.13	1.68	1.96	32~63	円・隅丸方形	古墳前期	
川島町 白井沼遺跡 第2・3次 (栗岡2007)													
第1号掘立柱建物跡	N-40° -W	側柱	3	1	7.15	3.34	23.88	2.38	3.34	47~121	方形	古墳前期後半	
第2号掘立柱建物跡	N-42° -W	側柱	(2)	1	(4.67)	3.43	(16.01)	—	3.43	32~112	円形	古墳前期後半	
第3号掘立柱建物跡	N-40° -W	側柱	2	2	3.28	2.95	9.68	1.64	1.48	22~69	円形	古墳前期後半	
第4号掘立柱建物跡	N-30° -W	側柱	3	1	4.7	3.46	16.26	1.57	3.46	37~84	方形	独立棟持柱建物	
蓮田市 さら遺跡 (鈴木他1983)													
第1号掘立柱建物跡	N-32° -W	側柱	2	2	4.35	3.4	14.79	2.18	1.7	27~51	円形	古墳前期前半	
さいたま市 大崎北久保遺跡 第2次 (山田他1996)													
第1号掘立柱建物跡	—	側柱	1	1	3.06	2.25	6.89	3.06	2.25	40	円形	古墳前期	
富士見市 上内手遺跡 (橋本1995)													
第1号掘立柱建物跡	N-9° -E	側柱?	2	—	3.1	—	—	1.55	—	18~48	円・隅丸方形	古墳前期後半	
戸田市 鍛冶谷・新田口遺跡 (西口1996)													
第1号掘立柱建物跡	N-5° -E	側柱	1	1	2.3	1.8	4.14	2.3	1.8	25~40	円形	古墳前期	
第2号掘立柱建物跡	N-80° -W	側柱	1	1	2.8	1.7	4.76	2.8	1.7	45~68	円形	古墳前期	
鳩ヶ谷市 三ツ和遺跡 第2次 (浅野1984)													
円形配置柱穴遺構	N-50° -E	側柱	1	1	3.18	2.07	6.58	—	—	52~90	円・方形	古墳前期後半	
第43表 埼玉県内の弥生時代掘立柱建物跡													
遺構名・調査年次	方位	分類	間数		規模(m)		平面積 (m ²)	柱間寸法(m)		掘形		時期	備考
			桁	梁	桁行	梁行		桁行	梁行	規模(cm)	形態		
熊谷市 古宮遺跡 第1~3次 (鈴木2004)													
第5号掘立柱建物跡	N-28° -E	側柱?	(2)	1	(3.2)	3	(9.6)	1.6	3	35~52	円・隅丸方形	弥生中期	
熊谷市 北島遺跡VI 19地点 (吉田2003)													
第60号掘立柱建物跡	N-34° -W	側柱	4	2	8.25	4.45	36.71	2.06	2.23	45~105	円形	弥生中期後半	
朝霞市 泉水山遺跡 (中山1983)													
第1号掘立柱建物跡	N-58° -W	側柱	2	1	5.15	3.8	19.57	2.58	3.8	48~69	円形	弥生後期末	
和光市 白子宿上遺跡 第2~4次 (鈴木他1995・2001)													
第1号掘立柱建物跡	N-18° -E	側柱	2	1	4.94	3.3	16.3	2.47	3.3	30~48	円形	弥生後期末	
第2号掘立柱建物跡	N-29° -W	側柱	1	1	2.57	2.38	6.12	2.57	2.38	45~48	円形	弥生後期末	
第3号掘立柱建物跡	N-84° -W	側柱	2	1	4.8	2.6	12.48	2.4	2.6	45~60	円形	弥生後期末	
第4号掘立柱建物跡	—	側柱	1	1	3.88	3.41	13.23	3.88	3.41	38~58	円形	弥生後期末	

蓮田市さら遺跡（鈴木他1983）

大宮台地の東側に位置する。縄文時代の遺構と弥生末～古墳時代初頭の遺構が検出されている。I～IV区の調査区があり、掘立柱建物跡はII区で見つかっている。2×2間の建物跡で、竪穴住居跡の存在しない空閑地に位置する。なお、このII区北端は台地の縁辺に位置している。

さいたま市大崎北久保遺跡（山田他1996）

大宮台地の縁辺に位置し、縄文時代・古墳時代・近世の遺構が発見されている。1×1間の平面形態で、梁行には独立棟持柱がある。

富士見市上内出遺跡（橋本1995）

荒川低地に位置し、新河岸川に沿って南北に延びる自然堤防上に立地する。古墳時代前期・平安時代・中世の遺構・遺物が発見されている。掘立柱建物跡は1棟検出されているが、大部分が搅乱によって削平されており、規模等は不明である。

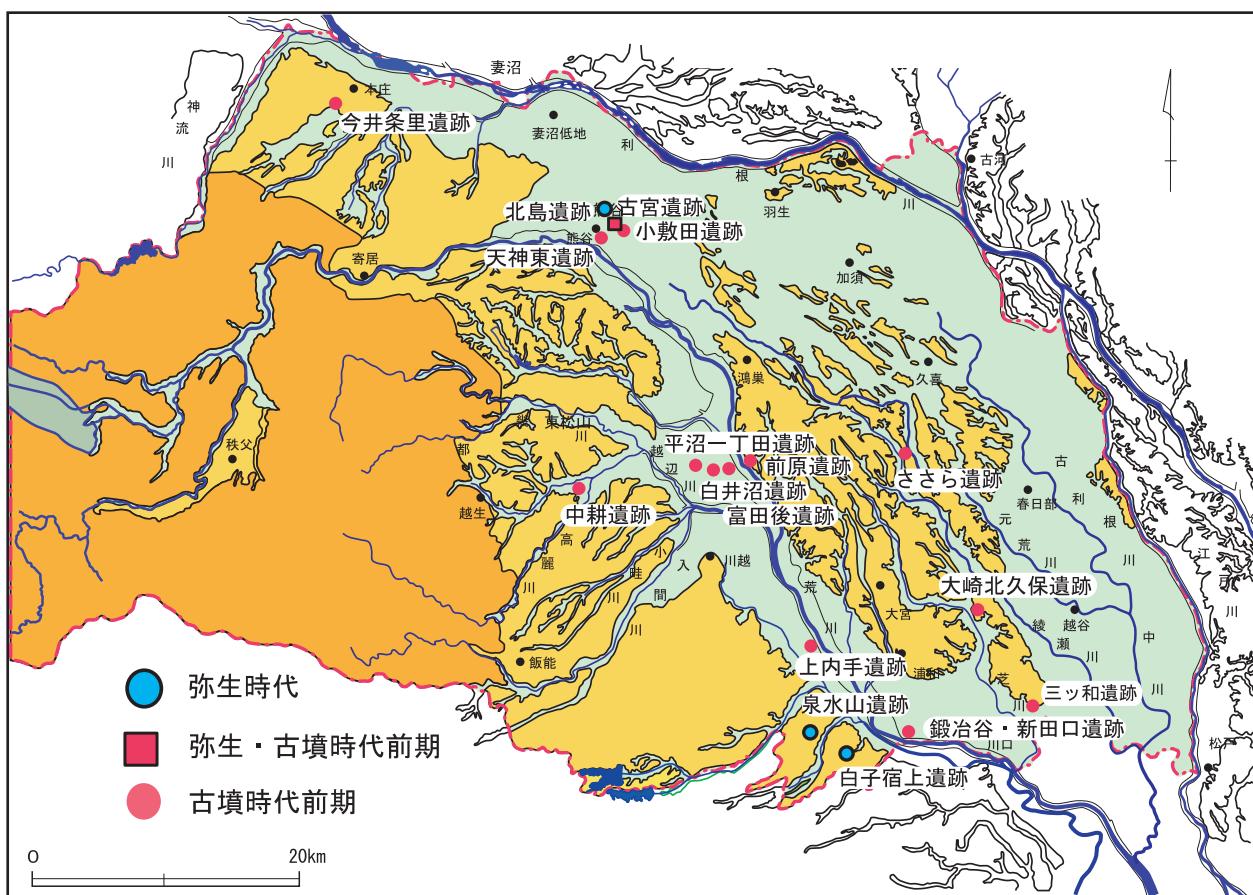
戸田市鍛冶谷・新田口遺跡（西口1986）

荒川左岸に形成されている自然堤防上に位置している。調査区は自然堤防の両岸を通して行われているため、調査区内に谷を挟む。弥生時代から古墳時代前期にかけて多くの遺構が発見されている。方形周溝墓と周溝遺構が混在し、その中に竪穴住居跡、掘立柱建物跡が存在する。掘立柱建物跡は2棟検出され、2棟とも2×1間で長辺の片側に独立棟持柱を有している。

鳩ヶ谷市三ツ和遺跡（浅野1984）

大宮台地の鳩ヶ谷支台南端から500m離れた位置に形成された自然堤防上に立地し、古墳時代前期・平安時代・中世の遺構・遺物が発見されている。掘立柱建物跡は、円形配置柱穴遺構として報告されている。1×1間の建物跡で、長辺に独立した棟持柱を持つ。

この他未報告のものでは川島町富田後遺跡で7



第200図 掘立柱建物跡分布図

棟、桶川市前原遺跡で3棟検出されている。これに平沼一丁田遺跡検出のものも含めると、県内の古墳時代前期と考えられる掘立柱建物跡は、14遺跡から約40棟が検出されることになる。

なお、古墳時代前期の掘立柱建物跡との連続性を考える上では、弥生時代の掘立柱建物跡を捉える必要がある。弥生時代と考えられる検出例は、上記の熊谷市古宮遺跡で弥生時代中期の掘立柱建物跡が1棟、同じく熊谷市の北島遺跡で4×2間で独立棟持柱を持つものが1棟（吉田2003）、朝霞市泉水山遺跡で弥生時代後期と思われる2×1間のものが1棟（中山1983）、和光市白子宿上遺跡で弥生時代後期末から古墳時代初頭頃と思われる2×1間の掘立柱建物跡が2棟、1×1間が2棟の計4棟が検出されている（鈴木他1995・2001）。

これらの分布を示したものが第200図である。古墳時代前期は、低地部に多くの遺跡が展開する。県北部の妻沼低地と、県中央部の荒川低地に集中しており、平沼一丁田遺跡は荒川低地に位置している。県域中央部に遺跡が集中していることは、調査の多さにもよるところが大きいと考えられるため、今後の調査により、荒川低地に連綿と掘立柱建物跡を有する遺跡が並ぶ可能性も考えられる。

この時期は低地部にも多くの集落が営まれ、新田開発の可能性が指摘されている（川島町2008）。平沼一丁田遺跡もそのような遺跡の中の一つとして考えられよう。

第44表 掘立柱建物跡の平面形態
平面形態

遺跡名	1×1	2×1	2×2	3×1	4×1	合計
平沼一丁田遺跡		2				2
今井条里遺跡	1	1				2
古宮遺跡		2			2	4
小敷田遺跡	2	1				3
天神東遺跡		1				1
中耕遺跡	3	3	1			7
白井沼遺跡			2	2		4
ささら遺跡			1			1
大崎北久保遺跡	1					1
三ツ和遺跡	1					1
鍛冶谷・新田口遺跡	2					2
合計	10	10	4	2	2	28

掘立柱建物跡の種類と平面形態・平面積

平面的な様相を捉るために、遺構の形による分類と、規模による比較を行いたい。

本遺跡で検出された掘立柱建物跡の平面形態は2棟とも2×1間の側柱建物跡であるが、これを第201図の中にあてはめると、弥生時代にも認められる建物跡で、小さい建物跡の部類に入ることがわかる。

県内で発見されている建物跡には、側柱の他に梁行片側に独立棟持柱を持つ建物跡、両側に独立棟持柱を持つ建物跡がある。独立棟持柱を持つ建物跡はすでに弥生時代から存在し、古墳時代前期にも認めることができる。このような平面の形態に見られる違いは、上部構造の違いに反映されるものと推測される。

なお、諏訪木遺跡・北島遺跡では、建築部材として壁板材が出土している。山本靖氏は、壁板材の詳細な検討とともに、建物跡の復元案を試みている。県内の発掘調査で現在までに壁板材と掘立柱建物跡の両方が同時に検出された遺跡は無いが、今後の調査例の増加とともに注目される案である（山本2008）。

平面形態と規模については第43・44表にまとめた。1×1間・2×1間・2×2間・3×1間・4×1間の建物跡が確認出来る。桁行2間以下の建物跡が全体の80%以上を占め、桁行3間以上の建物跡は全体の14%と、桁行2間以下の建物跡が主体をなす状況が認められる。また、梁行に間柱

第45表 掘立柱建物跡の平面積
平面積（m²）

10未満	10~20未満	20~30未満	30~40未満	40~50未満	50~60未満	合計
1	1	1				2
1	1					2
	1	1	1		1	4
1	2					3
1						1
5	2					7
1	2	1				4
	1					1
1						1
1						1
2						2
13	10	3	1		1	28

を持たない建物跡が大多数であることが当該期の特徴と言える。

桁行3間を越えるものは非常に少なく、古墳時代前期で白井沼遺跡、古宮遺跡で確認されている

のみである。

平面積を見していくと、20m²未満の建物跡が全体の80%以上を占めている。逆に規模の大きい30~60m²未満の建物跡は、僅か8%という結果となる

	弥生時代 側柱建物	弥生時代 片側独立棟持柱建物	弥生時代 両側独立棟持柱建物	古墳時代前期 側柱建物	古墳時代前期 片側独立棟持柱建物	古墳時代前期 両側独立棟持柱建物
一 × 一 間						
	白子宿上遺跡 第2号掘立柱建物			今井条里遺跡 第2号掘立柱建物	小敷田遺跡 第4号掘立柱建物	鍛冶谷・新田口遺跡 第2号掘立柱建物
二 × 一 間						
	泉水山遺跡	白子宿上遺跡 第1号掘立柱建物	古宮遺跡 第5号掘立柱建物	今井条里遺跡 第1号掘立柱建物	小敷田遺跡 第5号掘立柱建物	
一 × 二 間						
				ささら遺跡	白井沼遺跡 第3号掘立柱建物	
三 × 一 間						
					白井沼遺跡 第4号掘立柱建物	
四 × 一 間						
				古宮遺跡 第3号掘立柱建物	古宮遺跡 第1号掘立柱建物	
四 × 二 間						
			北島遺跡 第60号掘立柱建物			

第201図 埼玉県内の掘立柱建物跡の類型

(第45・46表)。

以上のことから、地域が違っても主体となる掘立柱建物跡の規模は変わらないため、同様な目的の元に建てられている可能性がある。

大規模な建物跡については、小規模な建物跡とは異なる性格の基に建てられていることが考えられる。これらに関しては遺跡の性格と、遺構の性格が関連するものと推測される。

平沼一丁田遺跡検出の掘立柱建物跡の性格

松井一明氏は、弥生時代の掘立柱建物跡と集落について、静岡県を中心として、竪穴住居跡と掘立柱建物跡の数量の割合から性格について言及している(松井2002)。それによると、集落のタイプには掘立柱建物跡の多い集落と、住居跡に対して掘立柱建物跡の少ないものに分かれるとされる。前者は倉庫の他に、平地式の建物や居住の施設を含む機能を、後者には竪穴住居跡や周溝を持つ建物跡に対して掘立柱建物跡が10~20%の割合を示し高床の倉庫跡の可能性を想定している。

また、宮本長二朗氏は弥生時代の掘立柱建物跡に対して、桁行2間以下の建物跡は、平地式の住居跡を含むが、大部分が高床の倉庫跡となる可能性を指摘している(宮本1991)。

平沼一丁田遺跡の建物跡は、2×1間で面積は10~20m²前後である。周溝状遺構を居住施設と仮定すると、住居跡と掘立柱建物跡との割合は66.7%となる。割合のみを見ると高い比率であるが、今井条里遺跡の様な住居跡に付属している規模の小さな掘立柱建物跡を考えると、建物跡の機能を倉庫とは考えられないだろうか。また、県内の建物跡に2×1間や1×1間のものが主体を占める状況も示唆的である。ただし、上部構造については検討の余地があるため、今後の課題としたい。

布掘りについて

次に、布掘りについて触れてみたい。本遺跡か

ら検出された古墳時代前半の布掘り工法は、現段階では県内に類例がない。そのため、県外に類例を探し、事例を見ていく中で若干の問題点について触れてみたい。

本遺跡で検出された布掘り建物跡は、桁行きの片側を布掘りし、片側を壺掘りしている。布掘りは溝を幅50cm、深さ50cm程度に掘削し、その中に立柱してから埋め戻しを行っている。

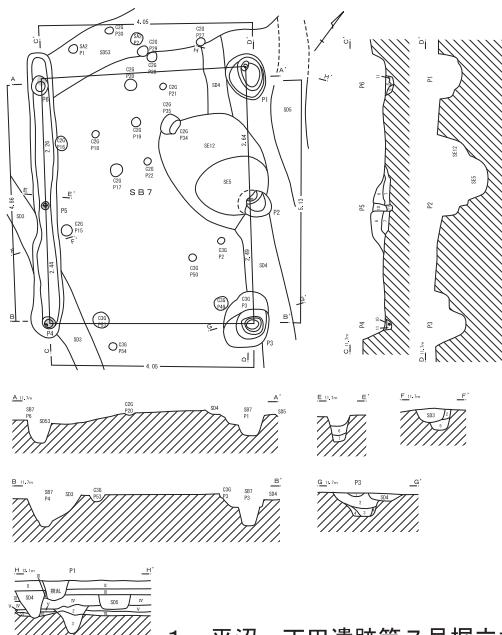
布掘り建物自体がいつからあるのかは不明であるが、少なくとも弥生時代には存在した。弥生時代の布掘り建物は北陸地方と東海地方を中心として検出例が多い(第203図)。

その文化が関東地方に入ってくるのは、古墳時代前期になってからのことである。関東地方での類例は東京都豊島番場遺跡(中島他1999)、群馬県中溝・深町遺跡(福嶋他2000)、神奈川県稻荷台地遺跡(戸田他1996)で認められる(第202図・第47表)。

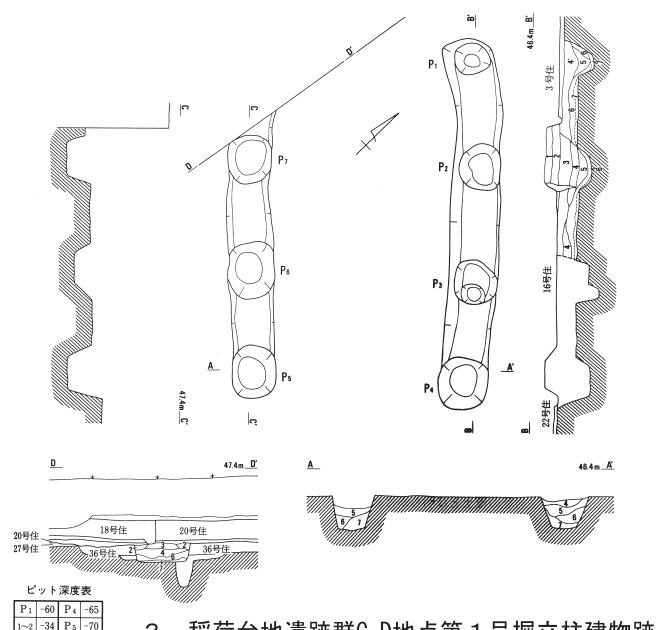
東京都豊島番場遺跡は、荒川低地に位置する遺跡である。3×1間で梁行の両側に独立棟持柱を持つ布掘り建物跡が1棟確認されている。掘形は布掘り部よりも深く掘削され、掘形の土層観察では溝部分は確認出来ない。

神奈川県稻荷台地遺跡は稻荷台地上に立地している。3×1間の建物跡と推定される建物跡が1棟検出されている。桁行両側が布掘りされている。溝は、幅90~100cm、深さ20~40cmで、土層断面を見ると、溝を掘った際に掘削しているものと溝を埋め戻してから掘削しているものがある。後者は抜き取りの痕跡かもしれない。

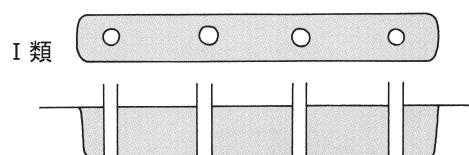
群馬県中溝・深町遺跡は、新田東部遺跡群の中に位置し台地縁辺と、低地部の調査が行われた遺跡である。遺構は台地部の溝跡によって区画された範囲の中に第2・3号掘立柱建物跡の2棟の布掘り建物跡が検出されている。第2号掘立柱建物跡は、4×2間で、桁行片側を布掘りしている。現状保存のために完掘はされていないが、溝幅は



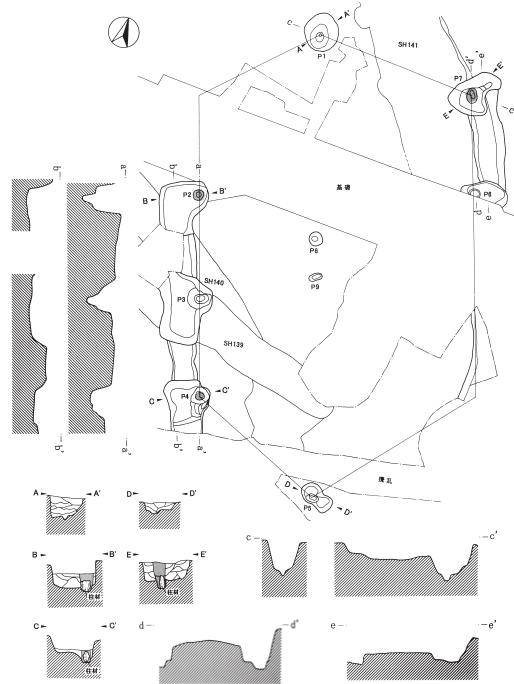
1、平沼一丁田遺跡第7号掘立柱建物跡



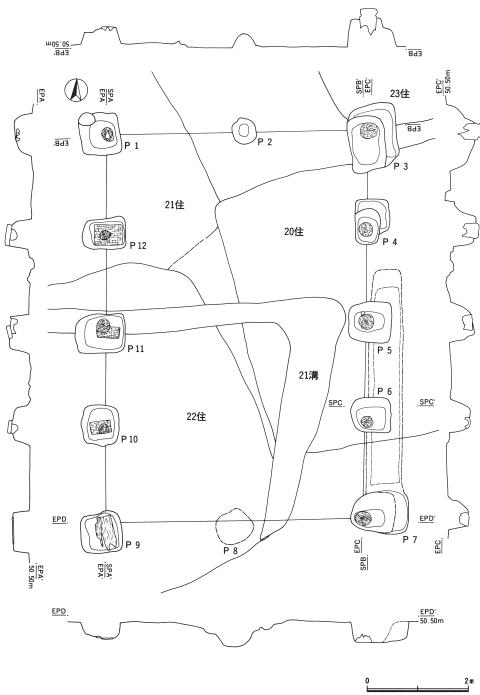
ピット深度表			
P ₁	-60	P ₄	-65
1~2	-34	P ₅	-70
P ₂	-60	5~6	-20
2~3	-40	P ₆	-56
P ₃	-80	6~7	-25
	-62	P ₇	-73
3~4	-38	7~	-36



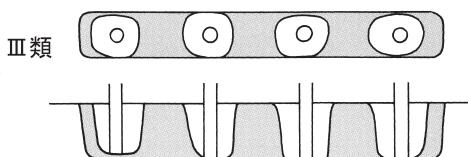
5、布掘り柱掘形の類例（奈良文化財研究所 2003より転載）



2、豊島馬場遺跡第104号掘立柱建物跡



4、中溝・深町遺跡第2号掘立柱建物跡



70cmである。土層観察により、掘形の方が後から掘削されている。

第3号掘立柱建物跡は、桁行・梁行とともに片側のみ確認されている。4×2間の建物跡になると推定される。布掘りの溝幅69cm、深さ約5~20cmである。溝掘削後に掘形を掘り、立柱した後に溝と掘形を埋め戻している可能性がある。

これらの類例と平沼一丁田遺跡とを比較してみたい。

中山敏司氏は、この工法の立柱方法について奈良・平安時代の例を中心にⅠ~Ⅲ類に分類している(中山2003)。古代の建物跡の工法に古墳時代前期の建物跡を当てはめるのには無理があるが、布掘りの基本的な立柱方法には類似点が認められるため、この分類に沿ってみたい(第202図5)。

Ⅰ類は更にA・B類に2分類される。

ⅠA類: 布掘りして柱を立てるもので、地中梁や長い礎板、腕木の設置を兼ねたものも含まれる。

ⅠB類: 壁立建物の壁体の細い間柱や、木舞などを狭い間隔で立てる口の字型の工法。

Ⅱ類: 布掘りした後に、溝底面から柱位置をさらに壺掘りして柱を立てるもので、帯状に長く掘られるものは、弥生時代からの伝統的な工法を受け継いだものとされる。また、ⅠA類と同様に、地中梁や地覆などの据え付けを兼ねていたものが含まれていた可能

性がある。

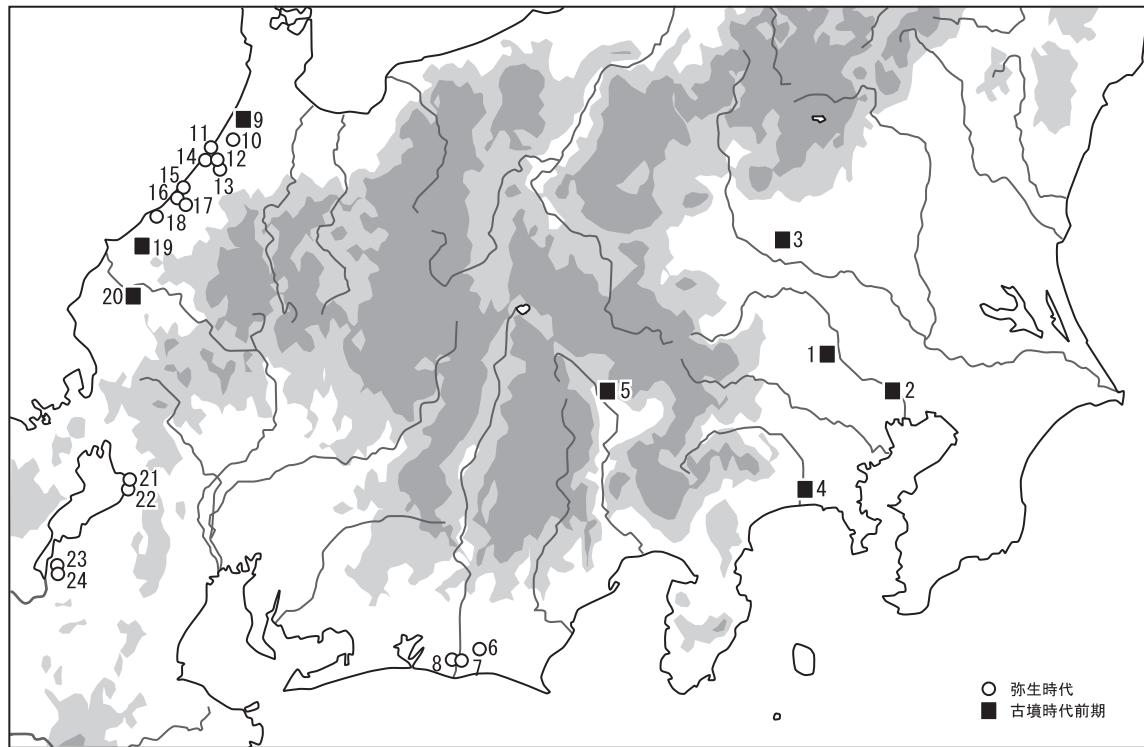
Ⅲ類: 布掘りして一端埋め戻し、その上から柱位置を壺掘りするものである。

平沼一丁田遺跡はⅠA類又はⅡ類となることが考えられる。神奈川県稻荷台地遺跡と群馬県中溝・深町遺跡3号掘立柱建物跡がⅡ類、豊島番場遺跡と群馬県中溝・深町遺跡2号掘立柱建物跡がⅢ類と推測される。これらの立柱方法の違いは何に起因するのだろうか。山中氏は布掘りについて布掘り掘形を埋め戻すのは柱位置の地盤を固める意図を持っていたとしつつも、Ⅲ類などは固めた地盤を壺掘りしてしまうので、実質的な意味については不詳としている。平沼一丁田遺跡の布掘り建物跡は、土層観察で地中梁や礎板を確認出来なかった。柱位置の地盤を固める目的と考えたいが、地盤改良についても何故片側だけなのか疑問である。調査事例の増加を待って再考したい。

関東地方の例を見ても布掘りの事例は希少である。さらに弥生時代の例は無く、この技術が当地方で発生したものとは考えにくい。文化の流入については、北陸ないしは東海地方から関東地方へともたらされた可能性が考えられないだろうか。その場合に想定されるルートは北陸地方から群馬県などを経るルート、東海地方から海上と河川を利用して来るルートが考えられる。どちらのルートを使用したのか、あるいは別のルートがあるのか、不明な点は多い。一つの手掛りとなるのが、

第46表 関東地方の布掘り建物跡

都道府県 市町村	遺跡 名	方位	分類	間数		規模(m)		平面積 (m ²)	柱間寸法 (m)		掘形		時期	備考
				桁	梁	桁行	梁行		桁行	梁行	規模(cm)	形態		
東京都 北区	豊島馬場遺跡Ⅱ													
第104号掘立柱建物跡	S-15° -E	側柱	3	1	6.00	5.4	32.4	2.00	5.4	40~130	円・方形	弥生末~ 古墳前期初頭	独立棟持柱建物 柱材出土	
群馬県太田市 (旧新田町)	新田東部遺跡群Ⅱ 中溝・深町遺跡													
第2号掘立柱建物跡	N-1° -E	側柱	4	2	7.68	5.12	39.32	1.92	2.56	50~130	方形	古墳前期後半	礎板出土	
第3号掘立柱建物跡	N-3° -E	側柱	4	—	7.36	—	—	1.84	—	75~128	方形	古墳前期後半	柱材出土	
神奈川県 藤沢市	稻荷台地遺跡													
第1号掘立柱建物跡	N-3° -E	側柱	3	1	7.35	5.4	39.69	2.45	5.4	62~106	円形	弥生末~ 古墳前期初頭		



- 埼玉県
■ 1 川島町平沼一丁田遺跡
東京都
■ 2 北区豊島馬場遺跡
群馬県
■ 3 新田町中溝・深町東遺跡
神奈川県
■ 4 藤沢市稻荷台地遺跡
山梨県
■ 5 藩崎市宿尻第二遺跡

- 静岡県
○ 6 掛川市溝ノ口遺跡
○ 7 磐田市勾坂中下遺跡
○ 8 浜松市天王中野遺跡
石川県
■ 9 津幡市刈安野々宮遺跡
○ 10 金沢市塚崎遺跡
○ 11 金沢市下安原遺跡
○ 12 野々市御経塚シンデン遺跡
○ 13 野々市押野タチナカ遺跡
○ 14 松任市倉部出戸遺跡
○ 15 小松市高堂遺跡

- 16 小松市漆町遺跡
○ 17 小松市八幡遺跡
○ 18 加賀市猫橋遺跡
福井県
■ 19 金津町菜山崎遺跡
■ 20 松岡町葵遺跡
滋賀県
○ 21 長浜市大塚遺跡
○ 22 近江町黒田遺跡
○ 23 守山市下長遺跡
○ 24 栗東町下鈎遺跡

第203図 布掘り建物跡分布図

約1km東に立地する白井沼遺跡の存在である。この遺跡は平沼一丁田遺跡とほぼ同時期に存在する。静岡県東部駿河地方で生産された大廓式土器の大型壺や複合口縁壺・大型甕・高环・鉢等が多数出土しており、他地域との関連が強い遺跡である。土器の移動については多々問題点を抱えるが、いずれにしても平沼一丁田遺跡と何らかの関わりがあった可能性が考えられる。

以上、平沼一丁田遺跡で検出された掘立柱建物跡について同時期の掘立柱建物跡との比較を行い、低地に位置する開拓村の倉庫跡の可能性を考えた。さらに、布掘り建物跡については、そのルーツを

北陸ないし東海地方に求めた。

小宮恒雄氏は、東日本の弥生時代末から古墳時代初頭の掘立柱建物跡について、梁行1間の建物跡が倉庫である可能性を指摘し、次いで東日本では竪穴住居跡に対して極端に検出数が少ないことから、倉庫を「世帯集団」あるいは「世帯共同体」が所有していたものとしている（小宮1991）。平沼一丁田遺跡のように突然集落の開始を見て、短期間で終焉を迎えるような遺跡の中で、掘立柱建物跡の所有と管理はどの様に行われてきたのか、他遺跡の様相とともに今後の課題とし、稿を閉じたい。

引用・参考文献

- 青木義脩・山田尚友 1996『大崎東新井遺跡（第2次）、大崎北久保遺跡（第1次、第2次）鶴巻西遺跡（第2次）発掘調査報告』浦和市遺跡調査会報告書第216集
- 赤塚次郎 1990『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集
- 浅野信英 1984『鳩ヶ谷市三ツ和遺跡—第2次調査報告—』鳩ヶ谷市教育委員会報告書第3集
- 浅野晴樹 1991「東国における中世在地系土器について—主に関東を中心にして—」『国立歴史民族博物館研究報告』第31集 国立歴史民族博物館
- 磯崎 一・中山浩彦 2005『白井沼遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第315集
- 井村広巳 2000『溝ノ口遺跡』掛川市教育委員会
- 岩田明広 1998『今井条里遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第192集
- 閏間俊明 2004『宿尻第二遺跡』韮崎市教育委員会
- 江戸遺跡研究会 2001『図説江戸考古学研究事典』
- 大橋康二 2006「肥前磁器の歴史」『江戸時代のやきもの一生産と流通—』瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
- 小原貴樹 1991「山陰の掘立柱建物」『弥生時代の掘立柱建物—本編—』第29回研究埋蔵文化財研究会
- 書上元博 1994『稻荷台遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第139集
- 金子直行・馬橋泰雄 2002『尾崎遺跡』川島町教育委員会第1集
- 金山弘明 1992『倉部出戸遺跡』松任市教育委員会
- 川島町 2006『川島町史』通史編 上巻
- 栗岡 潤 1999『天神東遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第240集
- 栗岡 潤 2007『白井沼遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第328集
- 小宮恒雄 1991「東海・関東・甲信の掘立柱建物—港北の遺跡を中心として—」『弥生時代の掘立柱建物—本編—』第29回研究埋蔵文化財研究会
- 佐口節司・室内美香 1995『梵天古墳群・勾坂中下4遺跡』磐田市教育委員会
- 鈴木一郎他 1995『白子宿上遺跡（第2次・第3次）』和光市埋蔵文化財報告書第17集
- 鈴木一郎他 2001『城山南遺跡（第3次） 白子宿上遺跡（第4次）』和光市埋蔵文化財報告書第25集
- 鈴木孝之 2004『古宮／中条条里／上河原』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第298集
- 鈴木敏昭 1983『さら・帆立・馬込新屋敷・馬込大原』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第24集
- 鈴木正行 1997『天王中野遺跡2』浜松市文化協会
- 瀬戸市 1994『瀬戸市史』陶磁史編 4
- 田嶋明人 1988『漆町遺跡Ⅱ』石川県埋蔵文化財センター
- 茶谷 満・家塚英詞 2008『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告3 建築部材（資料編）』鳥取県埋蔵文化財センター
- 中世を歩く会・埼玉県立歴史資料館 2002『在地土器検討会資料集—北武藏のカワラケー』
- 戸潤幹夫 1984『宮永遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
- 戸潤幹夫・湯尻修平 1990『高堂遺跡』石川県埋蔵文化財センター
- 戸田哲也他 1996『稻荷台地遺跡群（C・D地点 F地点 S地点）』稻荷台地遺跡群発掘調査団
- 中島広顕 1999『豊島馬場遺跡Ⅱ』北区埋蔵文化財報告第25集
- 中山清隆 1983『泉水山・下ノ原遺跡Ⅰ』朝霞市泉水山・下ノ原遺跡調査会
- 長佐古真也 2006「流通②関東・江戸」『江戸時代のやきもの一生産と流通—』瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
- 奈良文化財研究所 2003『古代の官衙遺跡 I 遺構編』
- 奈良文化財研究所 2004『古代の官衙遺跡 II 遺物・遺跡編』
- 西口正純 1986『鍛冶谷・新田口遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第62集
- 西野秀和 1988『刈安野々宮遺跡』石川県埋蔵文化財センター

- 橋本 勉 1995『上内手遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第160集
- 浜崎悟司他 1998『八幡遺跡Ⅰ』石川県埋蔵文化財保存協会
- 伴野幸一 2001『下長遺跡発掘調査報告 Ⅸ』守山市教育委員会
- 福嶋正史 2000『新田東部遺跡群Ⅱ 中溝・深町遺跡 中溝Ⅱ遺跡』新田町教育委員会
- 福田 聖 1999「埼玉県における低地の周溝墓と建物跡（1）一周溝墓とは何かを探るための試みー」埼玉考古第34号 埼玉考古学会
- 福田 聖 2002「方形周溝墓・周溝の覆土と出土状況—鍛冶屋・新田口遺跡ー」埼玉考古学会50周年記念論文集『埼玉の考古学Ⅱ』埼玉考古第41号 埼玉考古学会
- 福田 聖 2004「埼玉県における低地の周溝墓と建物跡（7）—さいたま市・川島町・吉見町の低地遺跡についてー」埼玉考古第39号 埼玉考古学会
- 藤沢良祐 2006「瀬戸・美濃登窯製品の生産と流通」『江戸時代のやきもの一生産と流通ー』瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
- 本田秀生 2002『猫橋遺跡』石川県埋蔵文化財センター
- 本田秀生 2004『戸水B遺跡（10・12・13）次』石川県教育委員会
- 松井一明 2002「豎穴住居と掘立柱建物 一静岡県下における低地集落の建物構造とイメージー」『静岡県における弥生時代集落の変遷』静岡県考古学会
- 宮崎幹也 1994『黒田遺跡3』近江町文化財調査報告書第17集
- 宮本長二郎 1991「弥生時代・古墳時代の掘立柱建物」『弥生時代の掘立柱建物一本編ー』第29回研究 埋蔵文化財研究会
- 山本 靖 2008「綴じ合わせ構造をもつ樋部倉矧壁板の意義」『研究紀要』第23号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 吉田 淳・横山貴広 2001『御経塚シンデン遺跡 御経塚シンデン古墳群』野々市町教育委員会
- 吉田 稔 1991『小敷田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集
- 吉田 稔 2003『北島遺跡Ⅵ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第286集

第47表 遺構番号新旧対応表

周溝状遺構

新遺構番号	旧遺構番号
第2号周溝状遺構	第33号溝跡
	第34号溝跡

第1号周溝状遺構P1

F-4 G P4

第48表 挖立柱建物跡一覧表

番号	方位	間数		桁行	梁行	平面積	柱間寸法	廂			掘方		重複	備考	
		桁	梁					桁行	梁行	桁方向	梁方向	廂面積	規模(cm)	深さ(cm)	
1	N-39°-E	2	2	2.95	2.53	7.46	1.47	1.26	—	—	—	30~54	23.5	SK7(P6と重複)	
2	N-44°-W	2	1	3.98	3.75	14.92	1.99	1.87	—	—	—	64~97	51.5	SB4·8 SE48 SD3·4	
3	N-47°-W	5	2	9.57	4.39	42.01	1.91	2.19	—	—	—	30~42	23.5	SB4·8 SE15·16 SD10·11·15·57 SK1·30·51	
4	N-45°-W	3	2	5.22	3.65	19.05	1.74	1.82	—	—	—	23~44	31.0	SB2·8 SD3·4	
5	N-45°-E	2	2	3.39	2.75	9.32	1.69	1.37	—	—	—	15~35	29.0	SD38·39·61 SK42·28(P3と重複)	
6	N-44°-W	2	2	4.12	3.35	(13.8)	2.06	1.67	—	—	—	18~25	17.5	SB9 SR2 SD32·35	
7	N-39°-W	2	1	5.00	4.05	20.25	2.46	4.05	—	—	—	15~93	56.5	SE5·12 SD3·4·53	
8	N-45°-W	2	2	5.23	4.70	24.58	1.74	1.56	0.9	1.92	15.41	22~48	23.0	SB2·4 SD3·4·5 SK30·50	
9	N-45°-W	3	2	6.53	2.80	18.28	2.17	1.40	—	—	—	16~45	21.0	SB6·15 SR2 SD35~37·59·60	
10	N-42°-W	2	2	4.10	3.24	13.28	2.05	1.62	—	—	—	26~36	26.1	SR2·3 SE34·42 SD32·35 SK27·36	
11	N-52°-E	3	2	6.58	5.12	33.68	2.20	1.71	—	1.86	12.03	12~34	27.0	SE30·37 ST1 SD7·38·39·49~51·58	
12	N-43°-W	(3)	2	3.90	2.77	10.80	1.30	1.38	—	—	—	12~27	15.0	SD32	桁行北側3間 桁行南側2間
13	N-53°-E	2	1	3.94	3.22	12.68	1.97	3.22	—	—	—	20~40	24.5	SD3·4	
14	欠番														
15	N-43°-W	2	1	5.13	2.51	12.87	2.56	2.51	—	—	—	20~35	20.5	SD36·37·39·59	

第49表 柱穴列一覧表

番号	方位	間数	長さ(m)	柱間(m)	直径(cm)	深さ(cm)	重複	備考
1	N-45°-E	2	5.36	1.75	27~33	12~21	SD10·11	
2	N-41°-E	4	5.51	1.36	14~28	5~16	SD4·5·53·55·56 SC1	

第50表 周溝状遺構一覧表

番号	グリッド	方位	長軸(m)	短軸(m)	開口部溝幅(m)	深さ(m)	溝幅(m)	深さ(m)	重複
1	F-3·4	N-45°-W	8.38	3.92	—	—	0.90~1.20	0.31	SE26·27 SK16·18 SD38·39
2	E·F-3·4	N-45°-W	9.32	5.21	0.85	0.07	0.53~1.30	0.16	SE33·41 SB10 SR3 SK36 SD35~39·60
3	D·E-2·3	N-45°-W	9.42	6.50	1.05	0.20	0.38~1.05	0.21	SE35 SB10 SR2 SK36 SD35·38·39

第51表 井戸跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	重複	備考
1	C-4	N-30°-E	楕円形	1.60	—	[1.25]	SE2より古い	
2	C-4	N-30°-E	楕円形	1.77	16.6	[1.25]	SE1より新しい SD1	
3	B·C-4	N-24°-W	楕円形	1.52	1.34	[0.42]	SD1より古い	
4	D-5	N-23°-W	円形	0.76	0.74	[1.49]	SD1より新しい	
5	C-3	N-35°-E	円形	1.46	—	1.33	SE12より新しい SD4より古い	
6	C-3	N-50°-W	円形	1.86	1.72	1.44	C-3GP76	
7	B-3	N-37°-E	円形	0.73	0.70	[1.40]	—	
8	C-5	N-39°-W	楕円形	1.02	0.88	0.57	SD1	
9	C-5	N-31°-W	円形	1.64	1.52	0.46	SD1	
10	C-5	N-6°-E	円形	2.49	2.22	1.25	SD2	
11	D-5	N-45°-W	円形	1.28	1.16	0.96	SD1	
12	C-2·3	N-51°-W	楕円形	2.36	1.79	1.30	SE5より古い SD4	
13	C-4	N-44°-W	円形	0.78	0.72	[1.05]	SD1	
14	C-4	N-45°-E	円形	1.05	1.02	[0.79]	SK1	
15	C-4	N-40°-W	円形	1.28	1.09	1.39	SD11より新しい	
16	D-4	N-13°-E	楕円形	1.49	1.26	1.27	SD10·57より新しい SB3P7	
17	D-5	N-15°-W	円形	1.16	1.12	1.25	—	
18	D-5	N-9°-W	円形	0.72	0.68	1.30	—	
19	E-7	N-14°-E	円形	0.78	0.69	1.37	—	
20	E-7	N-31°-W	円形	1.15	[1.06]	0.84	SD14·16	
21	D·E-7	N-45°-W	楕円形	[3.66]	1.44	1.24	SD8	
22	C-6	N-22°-E	楕円形	1.15	0.96	1.39	SD26より新しい	
23	B-6	N-5°-W	円形	0.88	0.80	1.22	—	
24	欠番							
25	C-7	N-83°-W	楕円形	1.66	1.38	[1.43]	—	
26	F-4	N-20°-W	円形	—	1.34	[1.31]	SR1	
27	F-4	N-31°-W	楕円形	1.08	1.00	1.23	SR1より新しい	
28	E-2	N-0°	円形	1.01	0.94	1.35	—	
29	F-3	N-80°-E	楕円形	2.20	1.92	1.39	—	
30	D-2	N-75°-W	円形	1.12	1.03	1.14	SD50より新しい	
31	E·F-3	N-49°-E	円形	1.19	1.10	1.35	SD38·39より新しい F-3GP7·8	
32	E-3	N-4°-E	円形	1.13	1.03	1.24	—	
33	E-3	N-9°-E	円形	1.17	1.11	1.36	SR2より新しい	
34	D-3	N-57°-E	方形	1.33	1.07	0.83	SD32より新しい	
35	D-3	N-83°-W	円形	2.46	2.29	1.47	SD32より新しい	

番号	位置	主軸方向	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	重複	備考
36	D-3	N-84°-W	円形	1.76	1.60	1.12	SE42·SD32より新しい	
37	D-2	N-14°-E	円形	1.13	1.05	1.26	SD32	
38	F-5	N-45°-W	円形	0.94	0.86	1.46	SD25	
39	C·D-2	N-32°-W	円形	1.69	1.47	1.35	SD32より新しい	
40	E-3	N-0°	円形	0.76	0.69	1.15	SD32より新しい	
41	E-3	N-27°-W	楕円形	1.85	1.49	[1.24]	SD35より新しい SR2	
42	D-3	N-57°-E	楕円形	1.59		0.68	SE36より古い SD32より新しい	
43	E-3	N-14°-E	円形	0.75	0.67	1.17	—	
44	D-1·2	N-37°-E	楕円形	0.79	0.69	1.31	—	
45	D-3	N-13°-W	円形	0.73	0.60	1.19	SD32より新しい	
46	欠番							
47	欠番							
48	D-4	N-22°-E	円形	0.77	0.69	1.40	SB2P4より新しい	平面観察
49	E-5	N-11°-E	円形	0.81	0.71	1.27	—	
50	D-1	N-33°-W	円形	1.27	1.19	0.75	—	
51	D-1	N-4°-E	円形	0.81	0.73	1.15	—	
52	A-7	短軸方位N-89°-W	方形	—	1.55	[0.97]	—	

第52表 土壌一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	重複	備考
1	C-4	N-43°-W	楕円形	0.96	[0.89]	0.29	SB3P3 SE14 SD15	
2	E-6	N-45°-W	楕円形	0.87	0.41	0.24	SD19より古い	磁器筒碗
3	C-6	N-80°-W	隅丸方形	0.79	[0.75]	0.50	SD14	大甕
4	E-7	N-69°-E	楕円形	0.86	0.68	0.55	E-7GP7	
5	B-6	N-40°-E	不整形	2.36	2.10	0.52	—	木片
6	D-6	N-48°-E	楕円形	1.08	0.58	0.08	—	焰烙
7	D-6	N-17°-W	隅丸方形	0.96	0.54	0.14	SB1P6	
8	C-6	N-33°-E	隅丸方形	1.83	1.63	0.25	—	木製品
9	B-6	N-41°-E	方形	1.12	0.90	0.12	SD26より新しい	
10	B-6	N-20°-E	(楕円形)	0.74	[0.72]	0.10	SD26より古い	
11	C-6	N-0°	楕円形	1.05	0.91	0.13	—	磁器皿
12	C-6	N-52°-W	楕円形	1.06	0.44	0.34	SD29	陶器擂鉢
13	C-6·7	N-34°-E	不整形	1.1	0.67	0.12	—	碗・擂鉢・焰烙
14	C-6	N-0°	円形	1.45	1.33	0.65	—	
15	E-2	N-37°-W	隅丸方形	0.98	0.92	0.46	—	
16	E·F-4	N-71°-W	不整形	1.56	0.67	0.15	SR1	土師器3点
17	欠番							
18	F-3	N-69°-E	楕円形	1.71	1.12	0.41	SR1	
19	D-1	N-48°-W	楕円形	3.12	0.92	0.15	SR4 P7	
20	E-8	N-90°-E	(楕円形)	1.16	[1.06]	0.20	—	
21	E-3	N-88°-E	不整形	0.91	0.44	0.09	—	
22	E-3	N-52°-W	隅丸方形	1.14	0.90	0.06	P77 P78	
23	D-2	N-51°-E	長方形	3.08	0.86	0.24	SD51 P32 P36	土師器高杯・甕
24	欠番							
25	D-4	N-50°-W	方形	0.90	0.71	0.52	—	
26	C-4	N-50°-W	不整形	0.76	0.60	0.60	SD15	
27	D-3	N-55°-W	楕円形	0.68	0.50	0.13	SB10 SD32	繩文
28	E-3	N-43°-W	長方形	0.76	0.18	0.04	SB5P3	
29	E-4	N-30°-E	長方形	2.00	0.40	0.07	—	
30	D-4	N-64°-W	長方形	2.10	0.40	0.04	SB8P17	
31	D-8	N-28°-W	方形	1.33	0.63	0.15	—	
32	D-7	N-42°-E	方形	0.80	0.36	0.09	D-7GP2	
33	欠番							
34	F-4	N-25°-W	円形	[0.91]	1.64	0.39	SD65	
35	E-1	—	—	0.60	—	0.36	—	南西壁面基本土層
36	E-3	N-35°-W	不整形	1.15	0.75	0.20	SR2 SR3	
37	E-7	N-73°-E	(楕円形)	[0.82]	[0.23]	0.39	SD20	
38	E-5	N-64°-E	楕円形	0.87	0.48	0.69	—	
39	C-6	N-53°-W	(円形)	1.04	[0.32]	0.08	SD26	
40	C-6	N-54°-W	楕円形	0.80	0.66	0.08	C-6GP1	
41	C-6	N-30°-W	楕円形	0.72	0.48	0.04	—	
42	E-3	N-49°-W	不整形	1.13	0.45	0.23	SB5P2 SD61	
43	E-5	N-51°-E	不整形	1.08	0.54	0.32	SD9 SD10	
44	E-5	N-51°-E	楕円形	[0.96]	0.67	0.31	SD25より新しい	
45	B-6	N-39°-W	(不整形)	0.58	[0.46]	0.17	SD26	
46	C-3	N-44°-E	(不整形)	0.82	0.26	0.35	SB7P1 SD4	
47	C-3	N-45°-W	(不整形)	[0.64]	[0.22]	0.29	SD46	
48	D-3	N-41°-E	(不整形)	0.86	[0.39]	0.21	SD7	
49	D-3	N-34°-E	不整形	0.80	0.50	0.18	SX1 D-3GP27	
50	D-4	N-71°-E	楕円形	0.56	0.52	0.09	SB8P3	
51	D-4	N-90°	不整形	0.86	0.18	0.17	SB3P10	
52	D-4	N-63°-W	円形	0.62	0.58	0.13	—	
53	D-6	N-18°-W	楕円形	0.65	0.50	0.16	—	
54	D-7	N-0°	楕円形	0.64	0.64	0.28	—	
55	E-2	N-63°-E	円形	0.71	0.63	0.66	—	
56	E-7	N-41°-W	隅丸方形	0.82	0.35	0.15	—	
57	E-7	N-44°-W	楕円形	0.65	0.41	0.25	—	
58	F-3	N-0°	円形	0.64	0.56	0.08	—	
59	F-3	N-40°-E	楕円形	0.64	0.35	0.07	F-3GP15	
60	D-1	N-68°-E	円形	0.57	0.49	0.06	—	
61	E-7	N-37°-W	楕円形	0.62	0.46	0.19	—	

第53表 火葬土壙一覧表

番号	グリッド	方位	長軸(cm)	短軸(cm)	煙道長(cm)	深さ(cm)	平面形	重複	遺物	備考
1	D-2	N-29°-W	83	29	42	14.6	T字形	SD7	骨NO.1~NO.17	平均深さ5.25cm 煙道深さ平均5.05cm
2	F-3	N-42°-W	77	44	—	13.2	楕円形	—	骨NO.1~NO.12	浅い所2.5cm

第54表 溝跡一覧表

番号	位置	方位	方位	長さ(m)	幅(m)		深さ(m)		重複
					最大	最小	最大	最小	
1	B-4 C-4·5 D-5·6 E-6	N-45°-W	—	39.34	3.55	3.10	0.92	0.6	SD2·18·SE4より古 SE3より新 SD7·8·25 SE1·2·8~11·13
2	B-4 C-4·5 D-5·6 E-6	N-45°-W	—	32.48	2.60	1.76	0.69	0.5	SD1より新 SD8 SE10
3	C-2·3 D-3·4·5 E-5·6	N-50°-W	—	45.80	0.66	0.28	0.09	0.02	SD4·7~11·32·43 SB2·13 SB4P6 SB7P6 SB8P7 SX1
4	C-2·3 D-3·4 E-4·5	N-45°-W	—	38.45	1.02	0.57	0.12	0.04	D43より古 SD3·7·25·53·SE5·12·SB2P1~3より新 S SK46 SB4P10 SB7P1·2 SB8P5 SB13P2
5	C-2·3 D-3	N-50°-W	—	12.85	0.69	0.37	0.08	0.02	SB8 SD7·53·55 SC1
6	B·C-3	N-45°-W	—	6.99	0.84	0.79	0.80	0.71	—
7	C-3·4 D-2·3 E-2	N-45°-E	—	30.52	1.44	1.24	0.74	0.65	SD1·3~5·11·15·32·35·38·39·48·52·58 SK48 SX1 ST1 SB11P3·4·12
8	C-7·8 D-6·7·8 E-5·6·7 F-5	N-45°-E	N-40°-W	45.00	3.90	2.00	0.93	0.47	SD1~3·14·19·23·25·27 SE21
9	E-5	N-43°-W	—	5.66	0.40	0.26	0.07	0.05	SD3 SK43
10	D-4·5 E-5	N-40°-W	—	12.54	0.55	0.38	0.21	0.08	SE16より古 SD3より新 SB3 SD11 SK43
11	C-3·4 D-4·5 E-5	N-45°-W	—	29.60	0.89	0.36	0.57	0.05	SD3·7·10·25 SE15 SA1P2 SB3P1·6
12	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—
13	C-2	N-30°-W	—	0.99	[1.35]	—	0.22	—	SD43より古 SD54より新
14	B-5 C-5·6 D-6·7 E-7	N-50°-W	—	39.68	3.24	1.17	1.35	0.94	SD16より新 SD8·29 SE20 SK3
15	C-4 D-4·5	N-40°-W	—	20.99	0.50	0.25	0.30	0.11	SD7 SK1·26 SB3P3·5
16	E-7	N-40°-W	—	3.00	1.18	1.10	0.79	0.55	SD14より古 SE20
17	欠番SK32に変更	—	—	—	—	—	—	—	—
18	E-6·7	N-55°-E	—	2.46	0.24	0.24	0.04	0.03	SD1·19より新
19	E-6	N-55°-W	—	2.04	0.52	0.38	0.09	0.04	SD8·18より古 SK2より新
20	E-7	N-50°-W	—	3.88	0.58	0.51	0.17	0.17	SK37より新
21	C-5	N-40°-W	—	1.23	0.50	0.39	0.10	0.08	—
22	B-5	N-50°-W	—	2.98	0.70	0.35	0.12	0.10	—
23	C·D-8	N-45°-E	—	4.56	1.96	1.87	1.07	0.48	SD8
24	D-8	N-45°-W	—	4.36	1.29	0.89	1.06	0.98	—
25	E-5·6 F-5	N-45°-E	—	15.40	1.52	0.94	0.73	0.66	SD8·SK44より古 SD1·4·11 SE38
26	B-5·6 C-6	N-50°-W	—	19.70	0.78	0.44	0.25	0.06	SE22·SK9より古 SK10より新 SK39·40·45
27	C-7·8	N-20°-E	—	6.47	1.69	0.89	0.89	0.59	SD8
28	欠番SK44·SD25に変更	—	—	—	—	—	—	—	—
29	C-5·6	N-40°-E	—	3.35	0.66	0.36	0.10	0.07	SD14 SK12
30	B-5·6	N-45°-W	—	5.33	0.60	0.23	0.31	0.16	—
31	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—
32	C-2 D-2·3 E-3·4 F-4·5	N-45°-W	—	39.50	1.71	1.16	0.40	0.09	SD3·7·25·35·37·42·43·58 SE34~37·39·40·42·45 SK27 SB6P1 SB10P1·2 SB12P6
33	欠番SR-2に変更	—	—	—	—	—	—	—	—
34	欠番SR-2に変更	—	—	—	—	—	—	—	—
35	D-2·3 E-3·4	N-40°-W	—	19.98	0.58	0.30	0.22	0.05	SR3·SB10P5より新 SR2·SB6·9 SD7·32·37·44 SE41
36	E-3·4 F-4	N-50°-W	—	3.44	0.30	0.22	0.02	0.02	SD33 SB9P7 SB15P3
37	E-3 F-3·4	N-55°-W	N-50°-E	20.60	0.32	0.18	0.18	0.10	SD38より新 SD32·35·39 SB9P9·10 SB15P6 SR1·2 ST2
38	D-1·2 E-2·3 F-3·4	N-40°-W	—	33.20	0.88	0.24	0.12	0.09	SD37より古 SD39·SR2·3より新 SD7·40·51·66 SE31 SB11 SB5P4 SR1
39	D-2 E-2·3 F-3·4	N-40°-W	—	30.66	0.85	0.50	0.10	0.06	SD37·38·51より古 SR2·3より新 SD7·40·44·59·61·66 SE31 SB5P4·8 SB11P7 SB15P4~6 SR1
40	D·E-2	N-45°-E	—	5.11	0.50	0.47	0.06	0.04	SD38·39
41	E-8	N-25°-E	—	1.50	1.26	1.10	0.21	0.14	—
42	C·D-2	N-55°-E	—	3.66	0.18	0.14	0.05	0.03	SD32·51
43	C-2 D-1	N-45°-E	—	20.52	0.69	0.50	0.27	0.12	SD13·53·54より新 SD3·4·32
44	E-3	N-45°-E	—	2.90	0.50	0.42	0.06	0.04	SD35·39
45	欠番SK42に変更	—	—	—	—	—	—	—	—
46	B·C-3	N-40°-W	—	7.37	1.05	0.95	0.78	0.41	SD47より新 SK47
47	B·C-3	N-40°-W	—	7.10	[0.70]	[0.43]	0.29	0.15	SD46より古
48	E-2	N-50°-W	—	3.10	0.52	0.33	0.19	0.09	SD7
49	D-2	N-40°-E	—	1.85	0.23	0.22	0.10	0.08	SD50 SB11
50	D-2	N-60°-W	—	3.11	0.19	0.17	0.08	0.05	SE30 SD49·51 SB11
51	D-2	N-40°-W	N-5°-W	5.00	0.40	0.29	0.09	0.06	SD39より新 SB11 SD38·42·50·66 SK23
52	C-3	N-35°-W	—	0.84	0.32	0.28	0.03	0.02	SD7
53	C-2·3	N-30°-E	—	5.83	0.95	0.76	0.28	0.17	SD4·43より古 SB7 SD5·55·56 SC1 SA2P1~4
54	C-2	N-65°-E	—	1.85	[1.04]	[0.57]	0.36	—	SD13·43より古
55	C-2·3	N-50°-E	—	1.19	[0.41]	—	0.07	—	SD56より古 SC1 SD5
56	C-3	N-45°-W	—	1.36	[0.39]	—	0.06	0.03	SD55より新 SA2P5
57	D-4	N-40°-W	—	1.36	0.22	0.18	0.06	0.05	SE16 SB3
58	D-2·3	N-40°-W	N-5°-E	4.68	0.58	0.48	0.05	0.04	SD7·32 SB11P1~3
59	E·F-3	N-60°-E	—	1.60	1.02	0.64	0.07	0.03	SD39 SB9P7 SB15
60	E-3·4	N-45°-W	—	2.18	0.14	0.12	0.11	0.03	SR2 SB9
61	E-3	N-45°-E	—	0.77	0.40	0.33	0.12	0.07	SB5 SD39 SK42
62	E-7 (断面観察)	—	—	不明	1.80	—	0.56	—	—
63	F-4	N-43°-E	—	1.24	0.26	0.22	0.11	0.07	SD64 SK34
64	F-4	N-45°-E	—	4.14	0.52	0.38	0.16	0.13	SE26 SD63·65
65	F-4	N-50°-W	—	0.76	0.46	0.32	0.08	0.06	SD64
66	D-1·2	N-40°-E	—	4.86	0.77	0.57	0.21	0.13	SD38·39·51 SK19